



特 集

泌尿器疾患に対する ロボット支援手術の適用拡大

瀬峡の三県境(北山川～熊野川)

CONTENTS

Topics

- 心房中隔欠損症に対するカテーテル治療
「経皮的心房中隔欠損閉鎖術」
- 就任の挨拶(地域医療支援センター・蒸野教授)
- 就任の挨拶(リハビリテーション医学講座・幸田教授)

Information

- がん専門医療人材養成プラン市民公開講座
一過性の認知・意識障害であるせん妄を知っていますか?
- 紀北分院東館竣工式

【理 念】

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

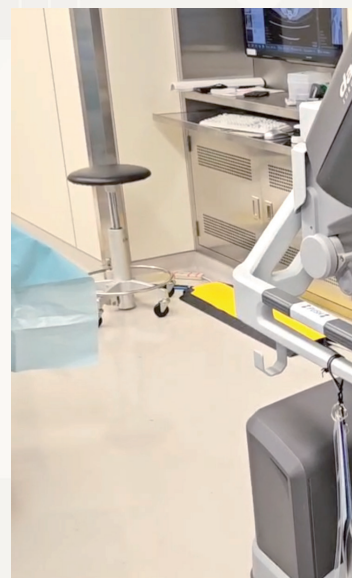
【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切に、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

泌尿器疾患に対する ロボット支援手術の 適用拡大



近年、医療技術の進歩は目覚ましく、手術分野でも革新的な変化が起きています。その中でも特に注目を集めているのが「ロボット支援手術」です。泌尿器科では、このロボット支援手術を先進的に導入し、患者さんの体への負担を軽減しながら、より精密で安全性の高い治療を提供しています。

ロボット支援手術とは？

手術支援ロボットを用いて、医師が遠隔操作で手術器具を動かしながら行う手術です。ロボットが自動で手術を行うのではなく、すべての動きは医師の判断と操作によって行われます。ロボットのアームは、人間の

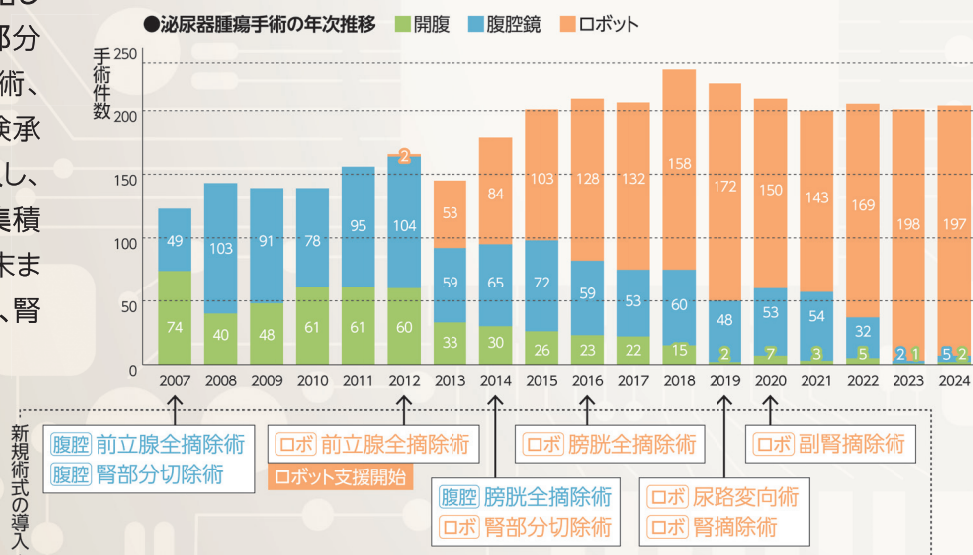
手では難しい繊細で安定した動作が可能で、手ぶれ補正機能も備わっています。また、高精細な3D映像により、患部を拡大して立体的に観察できるため、精密かつ安全性の高い手術に繋がります。

ロボット支援手術の体制と適用拡大

当院では、2012年に米国製の「ダヴィンチS」が導入されたのを皮切りに、現在は「ダヴィンチXi」2台と国産の「ヒノトリ」1台の計3台の手術支援ロボットが稼働しています。

泌尿器科では、2012年の前立腺全摘除術の保険適用を機にロボット支援手術を開始しました。その後、2014年に腎部分切除術、2016年に膀胱全摘除術、2019年に腎・副腎摘除術を保険承認の2～3年前から先進的に導入し、保険承認に向けた臨床データ集積に貢献してきました。2024年末までに前立腺全摘除術は1073件、腎

部分切除術は324件、膀胱全摘除術は143件、腎・副腎摘除術は149件、腎盂形成術は17件、総計1706件と多くの実績を積み上げています。2023年以降は泌尿器腫瘍手術のほぼすべてをロボット支援手術で行っています。





▲ダヴィンチXi(サージョンコンソール)



▲ダヴィンチXi(ペイシャントカート)

高難度手術への取り組み

当科では、高度な手技が求められる難易度の高い手術にも積極的に取り組んでいます。

1 腎がんに対する 下大静脈腫瘍塞栓摘除術

腎がんの約10%では、腫瘍が下大静脈と呼ばれる太い静脈に広がる「腫瘍塞栓」を合併することがあります。従来の開腹手術では出血が多いなど体への負担が大きいのが問題となっていました。ロボット支援手術では出血量や合併症が著しく減少し、入院期間も短縮しています。この手術は全国でもごく一部の施設でしか行われていません。

2 膀胱がんに対する 体腔内尿路変向術

膀胱がんに対して膀胱全摘除術を行う場合、尿を体外に排出するための「尿路変向術」が必要となります。この手術は手技が非常に複雑なため、多くの施設では膀胱摘出はロボットで行い、その後の尿路変向術は開腹手術に移行して行われています。当科では、2019年から尿路変向術もすべてロボット支援下に行う「体腔内尿路変向術」を開始しました。特に難易度が高くごく一部の施設でしか行われていない「新膀胱造設術」もロボットで行っています。

3 前立腺がんに対する 前立腺全摘除術

当科では「がんの根治」と「術後の機能温存（尿禁制や性功能）」の両立という大きな課題に正面から取り組んでいます。ロボット支援手術の導入により、がんを完全に切除するための広い範囲の摘出や拡大リンパ節郭清、尿失禁や性功能障害を予防するための神経温存や前立腺以外の構造物の温存などが可能となり、術後のQOL（生活の質）の改善に繋がっています。

さいごに

ここで紹介したロボット支援手術の恩恵を最大限に受けていただくには、がんが比較的早い段階で発見されることが重要です。血尿などの症状が見られた際に

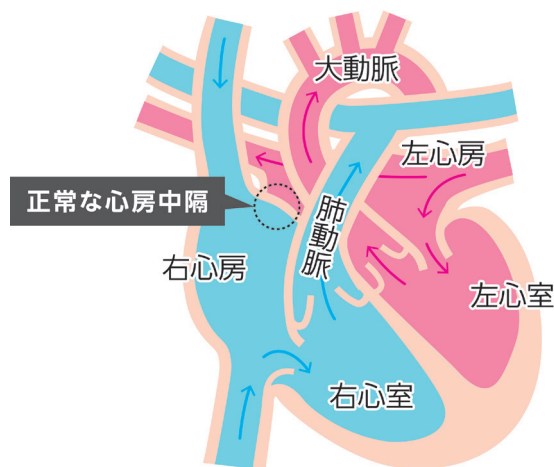
は速やかに泌尿器科を受診していただくことはもちろん、PSA（前立腺特異抗原）の測定による前立腺がん検診なども積極的に受けていただくことをお勧めします。



心房中隔欠損症に対するカテーテル治療 経皮的心房中隔欠損閉鎖術

心臓には、右心房・右心室・左心房・左心室の4つの部屋があります。心房中隔とは、このうちの右心房と左心房の間を仕切っている壁のことをいいます。心房中隔欠損症とは、この壁に生まれつき「穴(欠損孔)」が開いている状態のことをいいます。先天性心疾患(生まれつきの心臓の異常)は、赤ちゃんのおよそ100人に1人の割合で見られますが、心房中隔欠損症はそのうちの約7%を占めます。お母さんのお腹の中にいるときは、この心房中隔には「卵円孔」という血液の通り道があります。通常は、生まれたあと自然に閉じてふさがりますが、ふさがらずに穴が残ってしまったものが心房中隔欠損症です。小さい頃は症状がなく、健康診断などで心雑音や心電図異常をきっかけに見つかることが多いとされています。しかし、治療しないまま大人になると、不整脈、肺高血圧・三尖弁逆流の進行、心不全などの問題が起こりやすくなるため、穴をふさぐ治療がすすめられます。

これまでの治療は外科手術が主流でしたが、2005年に閉鎖栓を用いたカテーテル治療が認可され、普及しています。カテーテル治療では、形状記憶合金(ニッケル・チタン合金)でできたメッ



シュ状の「閉鎖栓」を穴に取り付けます。この閉鎖栓は、傘のように広がって穴の両側を挟み込み、しっかりふさがります。治療は全身麻酔で行われますが、従来の開胸を伴う外科治療と比較して、患者さんの負担が少ないので、安全に受けていただけます。

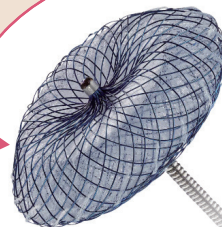
当院では、2025年6月から和歌山県内で初めてこのカテーテル治療を導入し、安心して治療を受けていただける体制を整えました。これからも、より多くの患者さんにこの治療を届け、地域の皆さまの健康に貢献してまいります。

カテーテルを用いた経皮的心房中隔欠損閉鎖術

閉鎖前心エコー図



閉鎖後心エコー図



閉鎖栓

アボットメディカルジャパン
合同会社より提供

教授就任挨拶



地域医療支援センター 教授
蒸野 寿紀

令和7年4月1日付けで、和歌山県立医科大学地域医療支援センター教授を拝命いたしました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

当センターは平成23年に和歌山県からの委託を受けて設置され、県内の医師不足や診療科の医師数の偏りといった課題に対して、地域医療を支える体制づくりを行ってまいりました。

本学では、将来県内で診療に従事することを希望する学生を「地域枠」として受け入れ、卒業後には地域医療の担い手として、県内各地で活躍しています。

現在は、へき地医療を担う「地域医療枠」、地域中核病院を担う「県民医療枠A」、産科に従事する「県民医療枠B」、産科・小児科・精神科に従事する「県民医療枠C」の4つの地域枠で学生を募集し医師を養成しています。

これら地域枠の卒業生125名が県内20の医療機関で勤務しており、県内の地域医療を支える重要な役割を果たしております。

今後も、この地域枠制度の安定的な運用と人材育成を通じて、和歌山県の地域医療に貢献してまいります。引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

経 歴

- 平成19年3月
自治医科大学 卒業
- 平成19年4月
和歌山県立医科大学附属病院 研修医
- 平成21年4月
新宮市立医療センター 内科医員
- 平成24年7月
和歌山県立医科大学附属病院 血液内科医員
- 平成26年4月
高野町立高野山総合診療所 総合診療科医師
- 平成28年4月
和歌山県立医科大学 血液内科学講座 助教
- 令和3年4月
和歌山県立医科大学附属病院
卒後臨床研修センター 副センター長 兼職
- 令和3年7月
和歌山県立医科大学
地域医療支援センター 副センター長・講師
- 令和7年4月
和歌山県立医科大学
地域医療支援センター センター長・教授
和歌山県立医科大学附属病院
卒後臨床研修センター 参与 兼職

センターの紹介

当センターでは、地域枠で入学した医学生の教育や、卒業後のキャリア形成支援に取り組むほか、ICTを活用した遠隔外来や遠隔救急支援などを通じて、地域医療を支える活動を行っています。

遠隔外来では、かかりつけの病院や診療所にいながら、本学附属病院の専門医からアドバイスを受けることができますので、ぜひご利用ください。

また、高知大学・三重大と連携した「黒潮医療人養成プロジェクト」では、県内各地の病院での実習や、他大学の学生との交流を通じ、未来の医師が地域医療を学ぶ機会をつくっています。

さらに、災害時を想定したドローンによる医薬品配送の実証実験にも取り組み、安心できる医療体制づくりを進めています。



▲ 地域枠学生・卒業生の実習報告会・交流会での集合写真

教授就任挨拶

地域のリハビリテーション医療のさらなる発展を目指して



リハビリテーション医学講座
教授

幸田 剣

令和7年6月1日付けで和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座教授を拝命いたしました。就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

県立医科大学では、他の診療科・多職種と連携し、集中治療室を含む徹底した急性期からのリハビリテーション治療を推進しています。おかげさまで本学が全国のリーダー的役割を果たしていますが、今以上に最先端の急性期リハビリテーション治療を展開し、引き続きこの分野の牽引役を担えるように取り組みます。

予定手術では術前から身体機能を高め、最高のコンディションで手術を受けていただき、術後翌日より早期離床・運動療法を行い、早期社会復帰を実現します。化学療法・放射線療法中・後の患者さんにも、倦怠感などの症状やQOL改善を目的に運動療法を実施します。

新棟が完成した紀北分院では、高齢者や障害者を対象とした強化型リハビリテーション治療を導入し、地域への復帰と自立を進めます。医介連携を通じ健康寿命の延伸につなげることが、リハビリテーション医学講座の責務であると考えます。

地域に信頼される質の高いリハビリテーション医療の提供に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

経 歴

- | | |
|---|--|
| ●平成12年3月
岐阜大学医学部 卒業 | ●平成25年9月
那智勝浦町立温泉病院リハビリテーション科 部長 |
| ●平成12年5月
岐阜大学医学部附属病院 研修医 | ●平成27年9月
University of Texas Southwestern Medical Center 留学 |
| ●平成14年4月
岐阜中央病院リハビリテーション科 | ●平成29年4月
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 講師 |
| ●平成17年4月
和歌山県立医科大学附属病院 学内助手 | ●令和4年4月
和歌山県立医科大学附属病院紀北分院 准教授 |
| ●平成19年4月
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 助教 | ●令和5年4月
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 准教授 |
| ●平成23年7月
岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻(整形外科学分野) 博士課程 修了 | ●令和7年6月
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 教授 |
| ●平成24年4月
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座 講師 | |

診 療 内 容

リハビリテーション医学・医療を必要とする疾患・障害・病態は多岐にわたり、神経系、運動器系、循環器系、呼吸器系、感覚器系、消化器系、泌尿器系、精神系など、どの診療科で治療を受ける患者さんにも貢献できます。脳血管障害などの症状としてみられる筋肉のつっぱりや高次脳機能障害、脊髄損傷などの症状としてみられる排尿や排便の障害と起立性低血圧や体温調節など自律神経の障害、褥瘡、摂食嚥下障害、周術期の身体機能障害の予防・回復、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、フレイルなどに対し、いわゆるリハビリテーション治療に加え、装具療法、薬物療法、神経ブロック、ボツリヌス療法、手術療法などの手段を駆使して患者さんの活動性を高めます。

和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン 市民公開講座

一過性の認知・意識障害であるせん妄を知っていますか？

■開催日時 令和8年1月31日(土) 13:00～15:00(開場12:30)

■開催方法 ハイブリッド開催(Zoom配信 及び 現地)

■現地会場 和歌山県立医科大学

伏虎キャンパス 北棟1階 大講義室

和歌山市七番町25-1(和歌山城ホール隣接) ※紀三井寺ではありません



参加無料

どなたでも
ご参加いただけます

■講演 「①せん妄ってなに? ～せん妄と認知症の違い、せん妄の予防・治療について～」

和歌山県立医科大学 麻酔科学講座/腫瘍センター 医師 栗山 俊之

「②なんだかいつもと違う? ～みんなで気づく!せん妄と薬のはなし～」

医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック 薬剤師 餅原 弘樹 先生

「③せん妄のメカニズムに迫る ～脳内で起きる「嵐」とは～」

和歌山県立医科大学薬学部 医療開発薬学研究室 神経研究者 山下 哲

※この他、総合討論/質疑応答(20分)も実施します。

参加方法

Zoomで参加する

事前登録必要

右のQRコードを読み込み、令和8年1月30日(金)正午までに事前参加登録をお願いします。

ご登録いただいた方には追ってZoom会議室へ入るための情報をご案内します。



現地で参加する

事前参加登録は不要です。現地会場まで直接お越しください。 ※場所はコチラで確認できます→

●現地参加希望で配慮が必要な方は、メール・FAX・ハガキのいずれかで「①氏名 ②電話番号 ③配慮が必要な内容」をご記入の上、令和8年1月21日(水)までに下記宛にご連絡ください。



【連絡先】公立大学法人 和歌山県立医科大学和歌山県立医科大学 経理課(担当:中谷)

〒641-8509 和歌山市紀三井寺811-1 TEL:073-441-0516 FAX:073-441-0706 メール:ganpro@wakayama-med.ac.jp

紀北分院東館竣工式

令和5年度から建設中であった紀北分院東館がこの度完成し、令和7年7月6日に竣工式を執り行いました。当日は、国会議員、県議会議員、地元の行政関係者や医療機関関係者など多くの方々にご参加いただき、東館の完成を祝いました。また、午後には内覧会を開催し、地域の皆様にもご来場いただき、新しい施設をご見学いただきました。

完成した東館(令和7年7月14日から開業)では、リハビリテーション科を1階に移転・整備し、訓練スペースを従来の1.7倍に拡張するとともに、最新の機器を導入するなどリハビリ環境と機能を大幅に拡充しています。

紀北分院では、現在、令和8年夏頃の完了を目指して本館の改修も進めており、眼科や整形外科の診療スペース・設備の拡充、耳鼻咽喉科の新規開設などを予定しています。

今後も地域の皆様の健康維持・増進に寄与し、より安全で安心な医療を提供できるよう努めてまいります。



掲 示 板

予約センター からの お知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

■ ご予約の流れ

- ① かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- ② 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- ③ 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナンバーカード(保険証)・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- ④ 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805

【受付時間】月・火・水・金…9:00～19:00
木……………9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489

【受付時間】月～金…8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、
上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。

最新の医学・医療カンファランスのお知らせ

令和7年度第7回市民公開講座を下記の通り開催します。一般の方に最新の医学・医療情報等を提供し、教養を深め、健康や治療に役立てていただくことを大きな目的として開催しています。医学・医療に関する専門的知識は必要ありませんので、興味のある方は、ぜひご参加ください。

- 開催日 令和7年11月13日(木) 14:00～16:00
- 会 場 本学 紀三井寺キャンパス 図書館棟3階 研修室
- 内 容 講演Ⅰ『うつ病の診断と治療～日常診療から最新治療まで～』
講演Ⅱ『じんぞー? なにそれ?…というあなたに知ってほしい腎臓のママ知識』

図書館棟▶



【申し込み・問い合わせ】

生涯研修センター

TEL.073-441-0789

締切:令和7年10月14日(木)
定員:先着30名

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1.個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2.診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3.十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4.他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5.個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。
著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

- 1.適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2.医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3.治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4.すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5.当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
- 6.医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.74)

2025年10月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院
〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300

FAX 073-441-0706

ホームページアドレス

<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>

「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



— 外来受付時間 —

- 受付時間:午前8時50分～午前11時30分
- 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- 休診日:土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
2025年
1月です。